２．研究計画調書の作成等について

（１）記入例等

＝応募情報（Ｗｅｂ入力項目）＝

①入力画面イメージ（応募情報）

JSPS 独立行政法人日本学術振興会 電子申請システム　ヘルプ　ログアウト

応募者向けメニュー＞研究計画調書作成（応募情報入力＞応募情報又は研究計画調書確認＞応募情報又は研究計画調書確認完了）

科学研究費補助金

応募情報入力

＜注意事項＞

- *のついた項目は必須項目です。
- 入力中に、一定時間、ボタン操作をせずにおくと、セッションタイムアウトにより、入力した情報が保存されない場合があります。随時[一時保存]ボタンをクリックして情報を保存して下さい。もし、セッションタイムアウトのエラーメッセージが出た場合は、「電子申請のご案内」ページの「よくあるご質問」をご参照下さい。
- 複数ウィンドウ（複数タブ）を開いて利用すると、システムが正常に動作しない場合があります。複数ウィンドウでのご利用は控えてください。

次へ進む　一時保存　保存せずに戻る

平成21年度（2009年度）基盤研究(AB)一般　研究計画調書

新規・継続区分	*（「継続」には、研究計画の大幅な変更を行う継続の課題のみ該当します。） （継続の場合、研究課題番号を記入）
研究計画最終年度前年度応募の有無	* （応募する場合、平成21年度が研究期間の最終年度に当たる研究計画の課題番号を記入）
細目番号 一覧	*
分割番号	
分野	
分科	
細目	
細目表キーワード 一覧	*（「細目表キーワード一覧」から、入力した「細目番号」中の該当するキーワードの「記号」を入力してください。）
細目表以外のキーワード	

研究代表者氏名	（フリガナ）ダイヒョウ　イチロウ	
	（漢字等）代表　一郎	
所属研究機関	（番号）99999	AAA大学
部局	（番号）999	○○部（その他等の番号を使用した場合に記入）
職	（番号）20	教授（「研究員」、「その他」を選択した場合に記入）
研究課題名	（全角40字以内。半角は使用不可） *	

【研究経費（千円未満の端数は切り捨てる）】（0の場合も記入すること。）

年度	研究経費（千円）	使用内訳（千円）				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
平成21年度	0	*0	*0	*0	*0	*0
平成22年度	0	*0	*0	*0	*0	*0
平成23年度	0	*0	*0	*0	*0	*0
平成24年度	0	*0	*0	*0	*0	*0
平成25年度	0	*0	*0	*0	*0	*0
総計	0	0	0	0	0	0

開示希望の有無	*
研究組織	研究組織表入力

科学研究費補助金

応募内容ファイル選択

記入した応募内容ファイル（Word又はPDF）を選択してください。

参照...

- 応募内容を修正する場合は、修正済みの応募内容ファイルを選択しなおすと、前のファイルが削除されて上書きされます。
- 応募内容ファイルに修正がない場合、応募内容ファイル選択欄は空欄のままで構いません。
- 応募内容ファイルについてはWordファイルの代わりにPDFファイルを選択することも可能です。（PDFファイルは応募内容ファイル様式（Word又は本会並びに文部科学省が提供する様式）を基に作成したものに限ります。）

次へ進む　一時保存　保存せずに戻る

ログアウト

②入力画面イメージ（研究組織表）

○細目番号

公募要領２２頁「系・分野・分科・細目表」付表キーワード一覧の中から選択してください。分割番号が設定されている細目を選択する場合は、必ず分割番号を入力してください。なお、分割「A」「B」については全ての研究種目、分割「１」～「５」については基盤研究（C）のみにおいて選択が必要となります。

○キーワード

公募要領２２頁「系・分野・分科・細目表」付表キーワード一覧から必ず一つ選択してください。ただし、基盤研究（C）の時限付き分科細目で応募する場合は不要です。また、基盤研究（A・B）の審査区分「海外学術調査」には、キーワード欄はありません。

○研究代表者氏名・研究機関・部局・職

自動表示された内容に誤り・変更等ある場合は、ｅ－Ｒａｄを通じて研究者名簿登録内容の変更が必要となりますので、登録期間内に手続きを行ってください。

○研究課題名

英語でも構いませんが、アルファベット、数字、記号等も全角のみによる入力となります。

○研究経費

千円単位で入力してください。例年、桁数誤りと思われるものが見受けられます。

○開示希望の有無

ここで「開示を希望しない」とした場合は、後日、やはり開示してほしいとの連絡があっても受け付けることはできません。

○研究組織表

研究分担者及び連携研究者は、研究者番号を入力しても自動表示されませんので、全ての項目について正確に入力してください。

＝応募内容ファイル＝

※以下①～⑥については、基盤研究（Ａ・Ｂ）（一般）の様式で例示しています

①「研究業績」欄

○種目によっては、最近５カ年間の業績に限定している場合と、そうでない場合がありますので、様式の指示書等を確認しながら作成してください。

○研究代表者及び研究分担者の業績が次頁以降にわたる場合は、その後に連携研究者の業績記入欄を設けてください。

○同一の論文等を研究代表者、研究分担者、連携研究者で共同執筆している場合は、それぞれの業績として別々に記入するのではなく、いずれか一人のところにのみ記入するようにしてください。

研究業績

本欄には、研究代表者及び・研究分担者が最近５カ年間に発表した論文、著書、産業財産権、招待講演のうち、本研究に関連する重要なものを選定し、現在から順に発表年次を過去にさかのぼり、発表年（暦年）毎に線を引いて区別（線は移動可）し、通し番号を付して記入してください。なお、学術誌へ投稿中の論文を記入する場合は、掲載が決定しているものに限ります。

また、必要に応じて、連携研究者の研究業績についても記入することができます。記入する場合には、二重線を引いて区別（二重線は移動可）し、研究者毎に、現在から順に発表年次を過去にさかのぼり記入してください（発表年毎に線を引く必要はありません。）。

発表年	研究代表者・分担者氏名	発表論文名・著書名　等 （例えば発表論文の場合、論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年（西暦）について記入してください。） （以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。著者名が多数にわたる場合は、主な著者を数名記入し以下を省略（省略する場合、その員数と、掲載されている順番を○番目と記入）しても可。なお、研究代表者・研究分担者及び連携研究者には下線を付してください。）
2008以降	半蔵門 太郎 麹町 一郎	**1.** 論文名 半蔵門太郎、○○○○、△△△△（他８名、１番目） ××学会誌　９巻　査読有　５１－５８　（２００８） **2.** 論文名 □□□□、麹町一郎、●●●●●（他５名、２番目） ◎◎学会誌　３巻　査読有　１２０－１２５　（２００８）
2007	半蔵門 太郎 永田 町男	**3.** 論文名 半蔵門太郎、△△△△（他４名、１番目） ◇◇論文集　１２巻　査読有　７８－８６　（２００７） **4.** 論文名 永田町男、学術仙太（他７名、１番目） ☆☆学会誌　１[illegible]　査読有　９５－１０１　（２００７）
2006 …	・・・	・・・・

研究代表者・分担者欄全体の通し番号を付す。

連携研究者欄は二重線で区別。

連携研究者氏名 （所属研究機関・部局・職）	発表論文名・著書名　等 （研究代表者及び研究分担者の研究業績として上欄に記載したものは記載しないでください。）
学術 仙太	**1.** 論文名　学術仙太、○○○○（他６名、１番目） ■■ジャーナル　８０巻　査読無　２１－２４　（２００８） **2.** 論文名　学術仙太、◆◆◆◆（他２名、１番目） ▽▽学会誌　４巻　査読有　６３－６８　（２００７）

連携研究者欄内での通し番号を付す。

②「これまでに受けた研究費とその成果等」欄

○特に必要であれば、今回応募する研究課題の研究代表者または研究分担者が、研究分担者として参画したものについて記入しても構いません。

○特に必要であれば、平成１９年度以前の科学研究費補助金において研究費の配分を受けない研究分担者として参画したものについて記入しても構いません。

これまでに受けた研究費とその成果等
本欄には、研究代表者及び研究分担者がこれまでに受けた研究費(科学研究費補助金、所属研究機関より措置された研究費、府省・地方公共団体・研究助成法人・民間企業等からの研究費等。なお、現在受けている研究費も含む。)による研究成果等のうち、本研究の立案に生かされているものを選定し、科学研究費補助金とそれ以外の研究費に分けて、次の点に留意し記述してください。 ① それぞれの研究費毎に、研究種目名(科学研究費補助金以外の研究費については資金制度名)、期間(年度)、研究課題名、研究代表者又は研究分担者の別、研究経費(直接経費)を記入の上、研究成果及び中間・事後評価(当該研究費の配分機関が行うものに限る。)結果を簡潔に記述してください。(平成２０年度の科学研究費補助金の研究進捗評価結果がある場合には、基盤A・B(一般)－１１「研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性」欄に記述してください。) ② 科学研究費補助金とそれ以外の研究費は線を引いて区別して記述してください。

③「研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性」欄

○平成２０年度に研究進捗評価※を受けた研究課題の研究代表者が新規応募する場合には、必ず記入してください。

○今回該当するのは、平成２０年度に研究進捗評価を受けた、研究期間が３年の研究課題の研究代表者が新規応募する場合と、研究期間が４年以上の研究課題の研究代表者が最終年度前年度応募により新規応募する場合です。

研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性
・本欄には、本応募の研究代表者が、平成２０年度に、「特別推進研究」、「基盤研究(S)」又は「学術創成研究費」の研究代表者として、研究進捗評価を受けた場合に記述してください。 ・本欄には、研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性(どのような関係にあるのか、研究進捗評価を受けた研究を具体的にどのように発展させるのか等)について記述してください。

※研究進捗評価

特別推進研究、基盤研究（S）、若手研究（S）、学術創成研究費において、研究課題の進捗状況を把握し、当該研究のその後の発展に資することを目的として、研究期間が３年の研究課題については最終年度に、4年以上の研究課題については最終年度の前年度に実施される。なお、平成１９年度から公募を開始した若手研究（S）については、平成２１年度以降に初めて研究進捗評価を受けることとなる。

④「設備備品費の明細・消耗品費の明細」欄

○何をどれだけ購入するのか、できるだけ具体的に記入してください。

○年度毎に線を引いて区分してください。また、年度ごとに合計金額を記入してください。

○いずれかの年度において、「設備備品費」が全体の研究費の９０％を超える場合には、当該経費の必要性を「研究経費の妥当性・必要性」欄に記述してください。

（金額単位：千円）

設備備品費の明細 （記入に当たっては、基盤研究（A・B）（一般）研究計画調書作成・記入要領を参照してください。）			消耗品費の明細 （記入に当たっては、基盤研究（A・B）（一般）研究計画調書作成・記入要領を参照してください。）	
年度	品名・仕様 （数量×単価）（設置機関）	金　額	品名	金　額
２１	○○システム （～～社製 型番 00-00）　一式 （内訳）　・○×装置 ・□△○器 ・モニタ用 PC ☆☆大学 計	 12,000 12,000	○○○○ ○△○△ ☆○☆○ 計	500 80 800 1,380
２２	△△式◇◇検出器 （仕様・・・・・・）　1 台 ☆☆大学 □□装置 （型番 A999）　3 台×@900 ☆☆大学、★★大学 計	 3,500 2,700 6,200	□○□○ ○○○○ □□□□ ▽□▽□ 計	300 500 10 90 900

⑤「旅費等の明細」欄

○行き先、期間等、できるだけ具体的に記入してください。

○いずれかの年度において、「旅費」または「謝金等」が全体の研究費の９０％を超える場合、及び「その他」において特に大きな割合を占める経費がある場合には、当該経費の必要性（内訳等）を「研究経費の妥当性・必要性」欄に記述してください。

（金額単位：千円）

旅費等の明細（記入に当たっては、基盤研究（A・B）（一般）研究計画調書作成・記入要領を参照してください。）								
年度	国内旅費		外国旅費		謝　金　等		そ　の　他	
	事　項	金額	事　項	金額	事　項	金額	事　項	金額
２１	打合せ ○○大学 2 日間 ▲▲実験 ☆☆研究所 4 日間 計	 70 150 220			▲▲実験補助 5 人×8 日 計	200 200	～～分析委託 計	1,500 1,500
２２	打合せ ○○大学 2 日間×3 回 計	 210 210	学会発表 ロンドン 7 日間 計	 800 800				

⑥「研究費の応募・受入等の状況・エフォート」欄

研究費の応募・受入等の状況・エフォート

本欄は、第２段審査(合議審査)において、「研究資金の不合理な重複や過度の集中にならず、研究課題が十分に遂行し得るかどうか」を判断する際に参照するところであり、研究代表者の応募時点における、(1)応募中の研究費、(2)受入予定の研究費、(3)その他の活動、について、次の点に留意し記入してください。なお、複数の研究費を記入する場合は、線を引いて区別して記入してください。

① 「エフォート」欄には、年間の全仕事時間を１００％とした場合、そのうち当該研究の実施等に必要となる時間の配分率(%)を記入してください。
② 「応募中の研究費」欄の先頭には、本応募研究課題を記入してください。
③ 科学研究費補助金の「特定領域研究」及び「新学術領域研究」の領域提案型にあっては、「計画研究」、「公募研究」の別を記入してください。
④ 所属研究機関内で競争的に配分される研究費についても記入してください。

連携研究者として参画するものは記入不要。

(1)応募中の研究費

資金制度・研究費名・研究期間(配分機関等名)	研究課題名(研究代表者氏名)	役割(代表・分担の別)	平成21年度研究経費(期間全体の額)(千円)	エフォート(%)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由
【本応募研究課題】 基盤研究(A)(一般) (H21～H23)	○○○○○	代表	15,300 (40,000)	25	
基盤研究(S)(H21～H25)	△△△△△	代表	30,000 (120,000)	―	××××××××××××××××××××。
基盤研究(C)(H21～H23)	□□□□□ (☆☆☆☆)	分担	500 (1,500)	[illegible]	

重複応募が可能であっても、重複して採択されることのない種目を記載する場合は「ー」を記入。

平成21年度に受け入れる直接経費の額(分担金として配分する額を含む。応募中のものは応募額)を記入し、( )書きで研究期間全体の総額を記入。

研究分担者等の場合、平成21年度に受け入れる分担金額を記入し、研究期間全体で受け入れる分担金総額を( )書きで記入。

応募時点で平成21年度の正確な配分額がわからない場合も、おおよその金額を記入。

(2)受入予定の研究費

資金制度・研究費名・研究期間(配分機関等名)	研究課題名(研究代表者氏名)	役割(代表・分担の別)	平成21年度研究経費(期間全体の額)(千円)	エフォート(%)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由
◎◎助成事業(H19～H21) (●●●機構)	○△○△○	代表	1,000 (5,000)	10	××××××××××××××××××××。
◆◆推進費(H20～H22) (◇◇大学内公募資金)	□□○○ (★★★★)	分担	1,500 (4,000)	10	××××××××××××××××××××。

特に名称のない機関内公募資金等は、当該資金の内容がわかるような名称を記入。

研究分担者等の場合は、( )書きで研究代表者等の氏名を記入。

(3)その他の活動

上記の応募中及び受入予定の研究費による研究活動以外の職務として行う研究活動や教育活動等のエフォートを記入してください。 50

合　　計 (上記(1)、(2)、(3)のエフォートの合計) 100(%)

⑦「研究の斬新性・チャレンジ性」欄(挑戦的萌芽研究のみ)

○挑戦的萌芽研究のみ該当します。

○挑戦的萌芽研究の審査方法・審査基準等は、１０月上旬に日本学術振興会のホームページで公開する予定です。

研究の斬新性・チャレンジ性
本欄には、次の点について、焦点を絞り具体的かつ明確に記述してください。 ① 本研究が、どのような点で斬新なアイディアやチャレンジ性を有しているか ② 本研究が、新しい原理の発展や斬新な着想や方法論の提案を行うものである点、または成功した場合に卓越した成果が期待できるものである点等

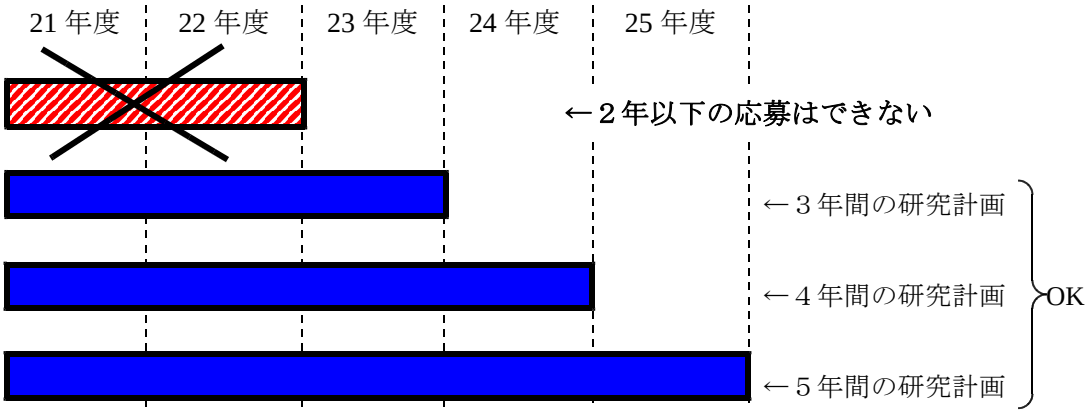
（２）時限付き分科細目の応募に関する注意点

「時限付き分科細目」は、**基盤研究(C)についてのみ**適用される分科細目であり、学術研究の動向に柔軟に対応するため、**「設定期間」**を設けて応募を受け付ける審査分野のことです。

この「設定期間」は、日本学術振興会が**新規の研究課題の応募を受け付ける期間**のことを指します。例えば「設定期間」が平成２１年度～２２年度の「細目番号９０３６・子ども学（子ども環境学)」であれば、平成２２年度公募まで新規課題の公募を行うということになります。つまり「設定期間」というのは、あくまで**公募を行う期間**であり、必ずしもこの期間内に研究を終わらせなければならない、ということではありませんのでご注意ください。

なお、設定期間については、見直しが行われる場合があります。

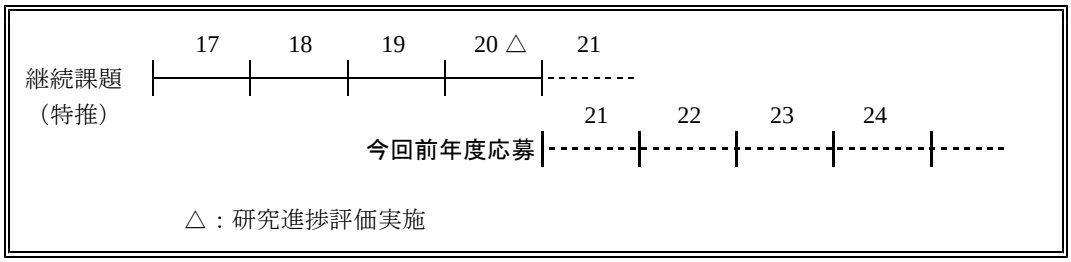
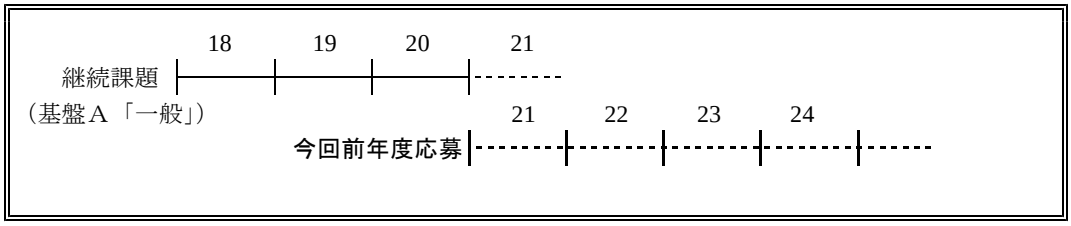
例）細目番号９０３６・子ども学（子ども環境学）
設定期間：平成２１年度～２２年度



この場合、上記３通りの応募が考えられます。

（３）研究計画最終年度前年度の応募について

○最終年度前年度応募が可能となるのは、研究期間が４年以上（育休等に伴う中断により研究期間が延長されたものを除く）で、平成２１年度が最終年度に該当する研究課題（継続課題）です。
○最終年度前年度応募により新たに応募できる研究種目は、「特別推進研究」「基盤研究」です。
○最終年度前年度応募により採択された場合、その基となった継続課題の平成２１年度分補助金は原則として交付しません。交付した場合であっても全額返還することとなりますので、新規応募課題の経費には予め当該継続課題の実施に必要な経費の一部を含めて計上してください。
○研究代表者は、当該継続課題の研究成果報告書を、平成２２年６月２０～３０日までの間に提出しなければなりません。
○研究計画最終年度前年度の応募の具体例

例	平成２１年度の継続課題	研究計画最終年度前年度の応募可能研究種目等
1	**【前年度応募可能な特別推進研究１件のみ継続課題がある場合】** ○特別推進研究（研究期間：平成 17 ～ 21 年度） →特別推進研究 →基盤研究（Ｓ） →基盤研究（Ａ・Ｂ・Ｃ）「一般」 →基盤研究（Ａ・Ｂ）「海外」 （※上記の研究種目のうちいずれか１件への前年度応募が可能）  	
2	**【前年度応募可能な基盤研究１件のみ継続課題がある場合】** ○基盤研究（Ａ）「一般」（研究期間：平成 18 ～ 21 年度） →特別推進研究（前年度応募ではなく、新規として応募することも可能。） →基盤研究（Ｓ） →基盤研究（Ａ・Ｂ・Ｃ）「一般」 →基盤研究（Ａ・Ｂ）「海外」（前年度応募ではなく、新規として応募することも可能） （※上記の研究種目のうちいずれか１件への前年度応募が可能）  	

例	平成２１年度の継続課題	研究計画最終年度前年度の応募可能研究種目等

３

【前年度応募可能な基盤研究で複数の継続課題がある場合】

○基盤研究（A）「一般」
（研究期間：平成 18 ～ 21 年度）

→ 特別推進研究（前年度応募ではなく、新規として応募することも可能）

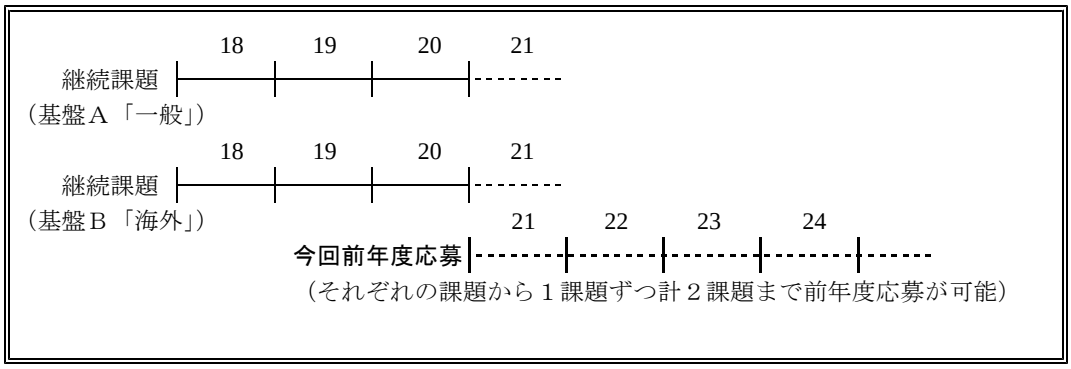
→ 基盤研究（A・B・C）「一般」
（※下記課題と重複するため、基盤Ｓ及び「海外」へは応募できない）

○基盤研究（B）「海外」
（研究期間：平成 18 ～ 21 年度）

→ 特別推進研究（前年度応募ではなく、新規として応募することも可能）

→ 基盤研究（A・B）「海外」
（※上記課題と重複するため、基盤Ｓ及び「一般」へは応募できない）

※１継続課題当たり、上記の研究種目に１件のみ前年度応募が可能。その際、重複応募の制限にかかる研究種目（審査区分）に前年度応募できる課題は１件のみ。
（例えば、基盤Ａ「一般」→特別推進研究に前年度応募した場合は、基盤Ｂ「海外」→特別推進研究への前年度応募は不可）
※特別推進研究が採択された場合には、他の研究課題は全て廃止する。



例	平成２１年度の継続課題	研究計画最終年度前年度の応募可能研究種目等

4

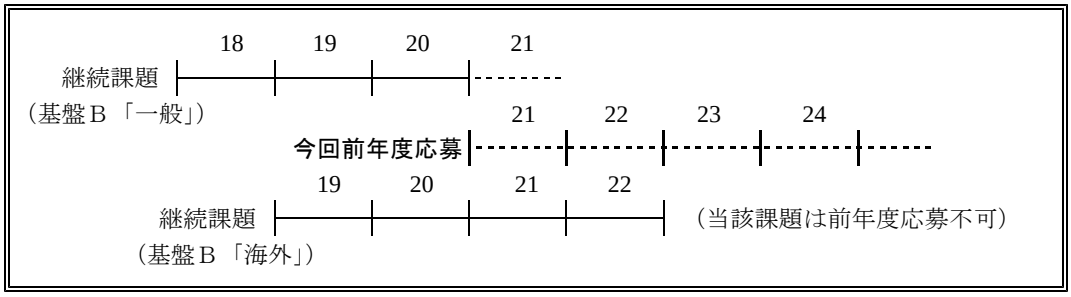
【基盤研究で２件の継続課題があるが１件は前年度応募ができない継続課題である場合】

○基盤研究（B）「一般」（研究期間：平成 18 ～ 21 年度）
→ 特別推進研究（前年度応募ではなく、新規として応募することも可能）
→ 基盤研究（A・B・C）「一般」

（※上記の研究種目のうちいずれか１件への前年度応募が可能
※基盤S及び「海外」には、下記課題との重複制限がかかるため前年度応募できない。）

○基盤研究（B）「海外」（研究期間：平成 19 ～ 22 年度）
→ 前年度応募不可
（※研究計画最終年度の前年度でないため。）

（※特別推進研究が採択された場合には、継続課題（基盤Ｂ「海外」）は廃止する。）



5

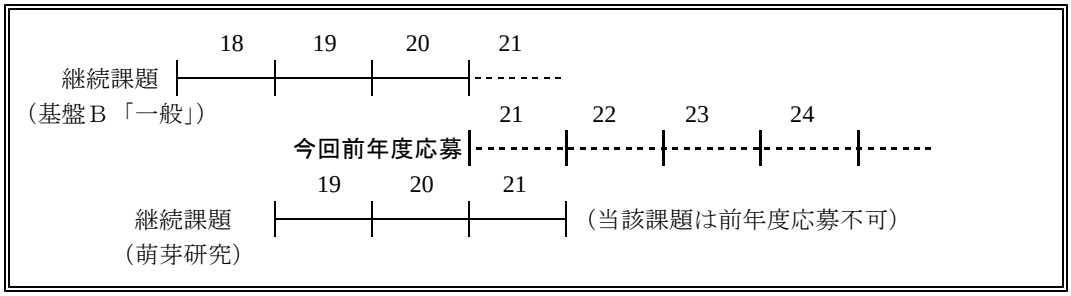
【前年度応募可能な基盤研究と萌芽研究の継続課題がある場合】

○基盤研究（B）「一般」（研究期間：平成 18 ～ 21 年度）
→ 特別推進研究（前年度応募ではなく、新規として応募することも可能）
→ 基盤研究（S）
→ 基盤研究（A・B）「一般」
→ 基盤研究（A・B）「海外」（前年度応募ではなく、新規として応募することも可能）

（※上記の研究種目のうちいずれか１件への前年度応募が可能
※基盤C「一般」には、継続課題（萌芽研究）と重複応募の制限がかかるため前年度応募できない。）

○萌芽研究（研究期間：平成 19 ～ 21 年度）
→ 前年度応募不可
（※前年度応募の対象となる研究種目でないため。）

（※特別推進研究が採択された場合には、継続課題（萌芽研究）は廃止する。）



（４）研究計画調書の作成等についての補足事項

研究計画調書の作成に当たっては、「公募要領」、「応募情報（Ｗｅｂ入力項目）作成・入力要領」、各研究種目の「研究計画調書作成・記入要領」及び研究計画調書に記載している指示書きをよく読んで、記入漏れ等のないよう十分注意してください。

【応募情報（Ｗｅｂ入力項目）関係】

＜共通事項＞

１．一旦「確認完了・提出」ボタンを押すと応募者側で修正ができなくなります。修正する場合には研究機関担当者が「却下」ボタンを押して、応募者が修正できる状態にした上で行うことになります。

２．「電子申請システム」は、長時間操作が行われない場合、インターネットからの接続を自動的に切断します。その際、それまで入力していたデータが消えてしまう可能性がありますので、入力が長時間にわたる場合は、「一時保存」によりデータをこまめに保存してください。

＜第２種・第３種科研費＞

１．細目の選定に当たっては、次の場合に分割番号を選択する必要があるので注意してください。
- 「総合・新領域系」の一部の細目（基盤研究、挑戦的萌芽研究、若手研究）
- 基盤研究（Ｃ）の一部の細目

２．特別推進研究の継続研究課題について、研究計画の大幅な変更を行わない場合は、「継続の場合の研究計画の大幅な変更の有無」において「無」を選択するのみで、その後の手続き（「確認完了・提出」、「承認」処理）を行う必要はありません。

３．次の入力項目は、研究計画調書には反映されないので、入力時に画面で確認してください。
- 関連研究分野研究者（特別推進研究（新規））
- 研究代表者連絡先（特別推進研究、基盤研究（Ｓ）、若手研究（Ｓ））

４．特別推進研究の新規応募の場合は、「応募内容ファイル選択」において、日本語版と英語版の両方を選択してください。

５．特別推進研究の継続研究課題において、研究計画の大幅な変更を行うため、研究計画調書の提出を行う場合は、次の点に留意してください。
- 英語の入力項目は入力しないでください。
- 「関連研究分野研究者（４項目）」欄と、「海外の研究者による審査が適当でない場合」欄は、

入力・チェックする必要はありません。

・「応募内容ファイル選択」では、日本語版のみ選択してください。英語版は選択しないでください。

・「関連研究分野（細目）」欄は入力しないでください。

【応募内容ファイル作成関係】

＜共通事項＞

１．「研究業績」欄等に、学術誌への投稿中の論文を記入する場合は、掲載が決定しているものに限ります。

２．例年、提出（送信）された研究計画調書の中に、白紙のページや、他の研究課題の応募内容ファイルが添付されているものが見受けられますが、そのままの状態で審査に付されますので、十分注意してください。

３．研究計画調書は審査資料ですので、極端に小さい字、行間、字間の狭いものなど、読みづらいものは避けてください。

＜第２種・第３種科研費＞

１．研究種目毎の作成・記入要領とあわせて、以下の事項につきましてもご留意頂いた上で作成してください。

特別推進研究

「CURRICULA　VITAE（研究者情報）」「RECENT RESEARCH ACTIVITIES（研究業績）Ⅰ・Ⅱ」欄は、研究者ごとに英語で作成してください。

「研究経費とその妥当性・必要性」欄に、「定価・見積の別」を追加したので、定価または見積による価格、定価の○○％など、金額の根拠がわかるように記入してください。

基盤研究（Ｓ）

基盤研究（Ｓ）の他、基盤研究（Ａ）に当該応募研究課題と関連する研究課題を応募している場合には到達目標等の相違点を、また、関連のない研究課題を応募している場合には研究内容等の相違点を、「研究目的」欄に記入することとなっています。該当者は必ず記入するようにしてください。

基盤研究（Ａ・Ｂ）（海外）

「研究計画・方法」欄には、調査研究実施国・地域及び旅行経路について必ず記入することとなっています。

「重複応募」欄には、同一年度内に審査区分「一般」及び「海外学術調査」の両方に新規の研

究課題として応募する、もしくは平成２１年度において審査区分「一般」の継続課題を有する者が「海外学術調査」の新規課題を応募する等の重複応募に該当する場合に必ず記入してください。

若手研究（S）

科学研究費補助金の研究代表者として受入予定の研究課題について、応募課題と関連する場合には到達目標等の相違点を、関連のない場合には研究内容等の相違点を「研究目的」欄に記入することとなっていますので、該当者は必ず記入してください。

【その他】

＜共通事項＞

１．平成２１年度公募について、文部科学省及び日本学術振興会ホームページ上に研究計画調書の応募内容ファイルを、関係通知と併せて掲載しています。研究計画調書の応募内容ファイルの作成に当たっては、ホームページから応募内容ファイルの様式をダウンロードして作成してください。

２．電子申請システムによって入力された研究計画調書のデータは来年８月末で消去する予定ですので、必要に応じて各機関で保存等行ってください。

＜第２種・第３種科研費＞

１．科学研究費補助金（基盤研究等）の「評価ルール」については、１０月上旬頃に日本学術振興会のホームページにおいて最新版を公開する予定ですので参考にしてください。